

# 6

## 第3章 武家政権の成長と東アジア

# 武士の世の始まり

### 学習1 各地で生まれる武士団

- 土地を寄進された貴族や大寺社は荘園領主となり、荘官となった地方の有力者は、荘園の支配を進めていきました。
- 土地をめぐり、各地で争いが起きました。争いを武力で解決するようになると、武芸を身につけ、朝廷や貴族の護衛をする者が現れ、**武士**とよばれるようになりました。
- 力のある武士を中心に**武士団**が作られました。天皇の子孫を統率者(棟梁)とする**源氏**と**平氏**は、有力な武士団でした。
- 10世紀の半ば、関東地方で平将門が、瀬戸内地方では藤原純友が、乱を起こしました。
- 東北地方では、有力者の勢力争いを源義家らが平定し、**奥州藤原氏**が東北地方を統一しました。

### 学習2 朝廷と結びつく武士

- 藤原氏と関係のうすい後三条天皇が即位すると、摂関政治の力が弱まりました。白河天皇は11世紀末に退位して上皇となっても、政治の実権を握り続けました。この政治を**院政**といいます。
- 12世紀半ばすぎの京都に、2つの戦乱があいついで起こりました。

#### note 2つの戦乱

- ・**保元の乱**…天皇と上皇の対立や近臣の対立により起こる。後白河天皇が**平清盛**、**源義朝**を味方につけ、兄の**崇徳上皇**に勝利した。
- ・**平治の乱**…清盛と義朝が戦い、清盛が勝利する。

- 平清盛は武士として初めて、太政大臣になりました。

#### note 平清盛の政治

- ・**日宋貿易**…大輪田泊(現在の神戸港)の港や航路を整備した。
- ・朝廷との関係…娘を天皇のきさきにして権力を強めた。

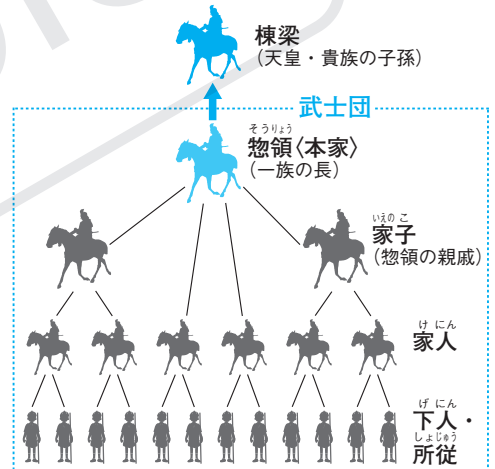
- 清盛が後白河上皇と対立すると、上皇の皇子が平氏の討伐をよびかけ、**源頼朝**らが挙兵し、源平の争乱が始まり、1185年に頼朝の弟の**源義経**が、壇ノ浦(山口県)で平氏を滅ぼしました。

### 学習3 鎌倉を中心とした武家政権

- 平氏の滅亡後、義経が無断で朝廷から官位を受けたことから、頼朝と義経の対立が深まりました。
- 頼朝は軍を送って朝廷にせまり、義経を捕らえることを名目に、**御家人**を、各地の**守護**や**地頭**として置くことを認めさせました。

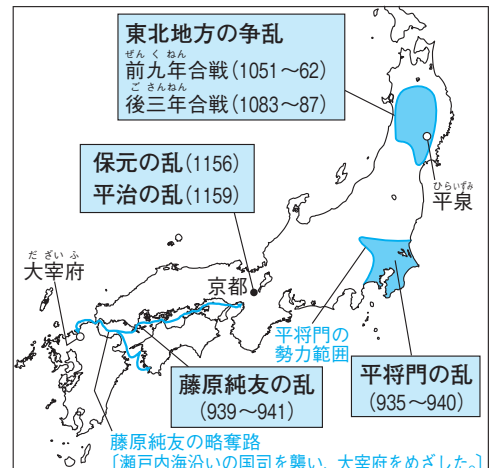
時代	年	できごと	中国
平安時代	935	関東で平将門の乱	五代
	939	瀬戸内海で藤原純友の乱	
	1068	後三条天皇の政治が始まる	
	1086	白河上皇が院政を始める	
	1156	保元の乱が起こる	
	1159	平治の乱が起こる	宋
	1167	平清盛が太政大臣になる	
	1180	伊豆で源頼朝が挙兵する	
	1185	壇ノ浦の戦いで平氏が滅びる	
	1185	源頼朝が守護・地頭を設置	
鎌倉時代	1189	奥州藤原氏が滅びる	
	1192	源頼朝が征夷大将軍になる	
	1203	執権政治が始まる	
	1221	承久の乱が起こる	
	1232	北条泰時が御成敗式目を制定	

#### ▼武士団のしくみ



※家人は家来、奉公人、所従は下層の従者など。

#### ▼各地の争乱



**note** 守護と地頭

- ・守護…国ごとに置かれ、国の軍事・警備にあたる。
- ・地頭…荘園・公領ごとに置かれ、年貢の取り立てをした。

- 頼朝は、岩手県平泉に中尊寺金色堂を建立した奥州藤原氏を、義経をかくまったとして滅ぼしました。
- 頼朝は1192年に朝廷から征夷大將軍に任命されました。頼朝は鎌倉に拠点を築いたので、これを**鎌倉幕府**といい、幕府が鎌倉に置かれた約150年間を鎌倉時代といいます。
- 將軍と御家人は**御恩**と**奉公**の関係によって結ばれました。

**note** 御恩と奉公

- ・御恩…將軍が領地を保護したり与えたりすること。
- ・奉公…京都や鎌倉の警備や、命がけの戦いをすること。

**学習4** 執権政治の展開

- 頼朝の死後、幕府の実権は頼朝の妻の北条政子と、その父の北条時政が握りました。北条氏は、將軍を補佐する**執権**という地位について政治を行いました。これを**執権政治**といいます。
- 源氏の將軍が3代でとだえると、1221年、後鳥羽上皇は幕府を倒すために挙兵しましたが、幕府軍に敗れ、**隠岐国**(島根県)に流されました。これを**承久の乱**といいます。この乱の後、幕府は朝廷を監視するために京都に**六波羅探題**を置きました。
- 北条泰時は、御家人の権利や義務、裁判の基準などを定めた**御成敗式目**(貞永式目)を制定しました。

**学習5** 文化・宗教・生活

- 武士が活躍したことは文化にも影響を及ぼしました。**東大寺南大門**に置かれた、運慶や快慶らによって彫られた**金剛力士像**には武士の力強さが表現されています。

**note** 鎌倉時代の文学

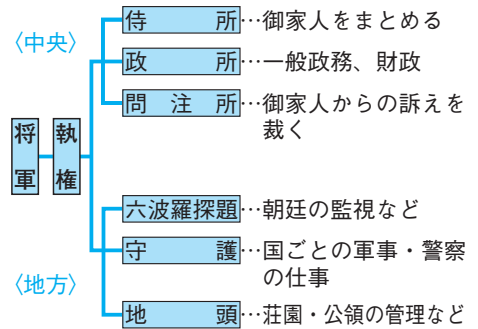
- ・軍記物…『**平家物語**』が琵琶法師によって語られる。
- ・随筆…吉田兼好が『**徒然草**』、鴨長明が『**方丈記**』をあらわす。
- ・和歌集…藤原定家が『**新古今和歌集**』を編集する。

- 新しい仏教の教えが次々と生まれました。

**note** 新しい仏教

- ・**法然**(浄土宗)…「南無阿彌陀仏」を念じればよい。
- ・**親鸞**(浄土真宗)…救いを信じる心を起こすだけで救われる。
- ・**一遍**(時宗)…各地をまわり、踊り念仏を広めた。
- ・**日蓮**(日蓮宗)…法華經の題目を唱える。
- ・**栄西**(臨濟宗)、**道元**(曹洞宗)…**禅宗**を日本に伝えた。

▼鎌倉幕府のしくみ



▼中尊寺金色堂

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

▼北条政子の演説 (『吾妻鏡より』一部要約)

さあ侍ども、たしかに聞け。日本国の侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生のだいじと思い、一族・郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活にカツキ、国に下るときははだしてやっど帰ってきた。それを頼朝殿があわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、みな喜んだものだ。この御恩を忘れて、このたび京方につくか、將軍に奉公するか、今ははっきり言いきってみよ。

▼御成敗式目(貞永式目) (一部要約)

- 諸国の守護の仕事は、御家人の京都を守る義務を指揮・催促すること、謀反や殺人などの犯罪人の取り締まりである。(第3条)
- 地頭は荘園の年貢をさしおさえてはいけない。(第5条)
- 20年以上継続してその土地を支配していれば、その者の所有になる。(第8条)

## 確認問題

●一問一答● 次の問いに答えなさい。

学習1

□(1) 武士の棟梁として、多くの武士団を支配した勢力は、平氏ともう1つは何氏か。(1)

□(2) 平安時代の後半に、岩手県の平泉を中心に栄えた東北地方の豪族は何氏か。中尊寺金色堂に一族の繁栄があらわれている。(2)

学習2

□(3) 白河天皇が上皇となったのちも、院とよばれる御所で行った政治を何とよぶか。上皇やその住まいのことを院とよんだ。(3)

□(4) 武士としてはじめて太政大臣となり、貴族にかわって政権を握った人物はだれか。保元の乱、平治の乱で対立勢力を一掃し武家政権を打ち立てた。(4)

□(5) (4)が中国で行った貿易を何とよぶか。瀬戸内海の航路を整え、兵庫の港(大輪田泊)を整備した。(5)

□(6) 源頼朝の挙兵後、頼朝と主従関係を結んだ武士を何とよぶか。(6)

□(7) 国ごとに置かれ、軍事・警察の仕事にあたった役職を何とよぶか。源義経を捕らえる口実で設置された。(7)

学習3

□(8) 公領や荘園におかれ、年貢の取り立て、土地の管理、治安の維持にあたった役職を何とよぶか。(8)

□(9) 鎌倉に幕府が置かれていた時代を何とよぶか。源頼朝は1192年に征夷大將軍に任じられた。(9)

□(10) 將軍は(6)に役職を与え、先祖から引き継いだ領地を保護したり、新たな土地を与えたりした。このことを何とよぶか。(10)

□(11) (6)たちが將軍に対して忠誠を誓い、「いざ鎌倉」というときに一族を率いて戦いに参加することを何とよぶか。(11)

学習4

□(12) 源頼朝の死後、鎌倉幕府の実権をにぎった北条氏の政治を何とよぶか。北条氏は頼朝の妻政子の実家。(12)

□(13) 後鳥羽上皇が、幕府を倒そうとして兵をあげたが、幕府の大軍に敗れ隠岐に流された。この乱を何とよぶか。(13)

□(14) (13)の乱のあと、朝廷を監視し、西国の支配にあてるため、京都に置かれた役所を何とよぶか。北条氏一門がその役職についた。(14)

□(15) 1232年、北条泰時が裁判の基準を示すための法律をつくった。この法律を何とよぶか。のちに室町幕府や戦国大名による武家法の手本となった。(15)

□(16) 運慶らによってつくられた金剛力士像が安置されている建物を何とよぶか。平安時代の大嵐で倒壊したが、宋の技術を用いて再建された。(16)

□(17) (9)に琵琶法師によって広められた軍記物は何か。(17)

学習5

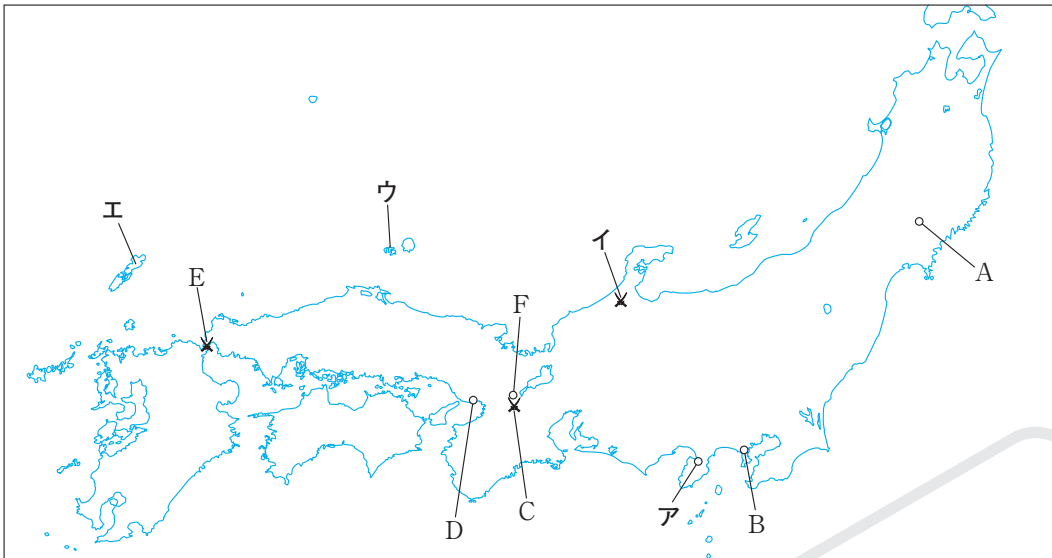
□(18) (9)の末期に、吉田兼好が書いた随筆集は何か。『枕草子』・『方丈記』とならんで日本古典文学の三大随筆にあげられる。(18)

□(19) 阿弥陀仏を信じて自分の罪を自覚した悪人こそが救われると親鸞が説いた仏教の宗派を何とよぶか。(19)

□(20) 宋から伝わった仏教の宗派で、座禅によって自分でさとりを開くことを目的とする宗派を何とよぶか。栄西は臨済宗、道元は曹洞宗を開いた。(20)

# 基本問題

1 次の地図を見て、あとの問いに答えなさい。



1	(1)	
	(2)	
	(3)	
	(4)	
	(5)	
(6)	①	
	②	
(7)	①	
	②	

- (1) Aを拠点にして権力をふるい、中尊寺金色堂を建立したのは何氏か。
- (2) 幕府が置かれたBの地名を答えなさい。
- (3) Cの場所で起こった平治の乱で、平清盛に敗れた人物はだれか。次のア～ウから選びなさい。  
ア 源義朝      イ 平将門      ウ 後鳥羽上皇
- (4) Dは、平清盛が整備した大輪田泊があった場所である。この港で清盛が貿易を行った中国の王朝名を答えなさい。
- (5) Eは、平氏が滅亡した場所である。この地名を答えなさい。
- (6) Fには、承久の乱後に置かれた幕府の役所がある。次の問いに答えなさい。
  - ① その役所名を書きなさい。
  - ② その役所の仕事を、次のア～ウから選びなさい。  
ア 朝廷の監視と西日本の武士の統制  
イ 年貢の取り立て  
ウ 荷物の運送
- (7) 次の①・②の場所を、地図中のア～エからそれぞれ選びなさい。
  - ① 平治の乱で源頼朝が流された場所
  - ② 承久の乱で後鳥羽上皇が流された場所

2 右の資料を読んで、次の問いに答えなさい。

- (1) 資料の①にあてはまる人物はだれか。
- (2) 資料の②にあてはまる語句で、将軍と主従関係を結んだ御家人が都の警備につとめ、戦いに命がけであたったことを何というか。
- (3) 資料の言葉はだれが話した言葉か。次のア～エから選びなさい。  
ア 北条政子      イ 北条泰時  
ウ 源実朝      エ 源義経

さあ侍ども、たしかに聞け。日本国の侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生のだいじと思ひ、一族・郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活に力つき、国に下るときははだしでやっと帰ってきた。それを( ① )殿どのがあわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、みな喜んだものだ。この御恩を忘れて、このたび京方につくか、将軍に( ② )するか、今はっきり言いきってみよ。 (『吾妻鏡』より一部要約)

2	(1)	
	(2)	
	(3)	

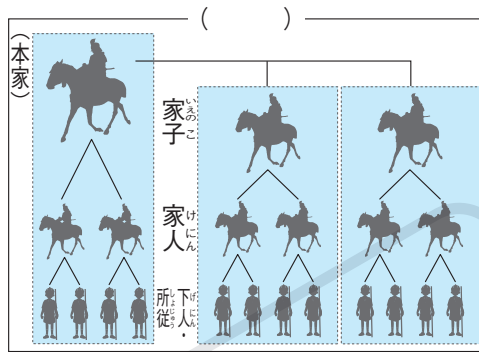
# 練習問題

1 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

10世紀に入ると、貴族や寺社、地方の豪族は私有地(荘園)を広げていった。11世紀半ば過ぎになると、国司の税の取り立てからのがれるために、藤原氏などの貴族や大寺社に所有者になってもらい、もとの持ち主は荘官となって、私有地を支配していった。そして、土地を守るために、武芸を身につけ、戦いを職業とする武士が育ってきた。

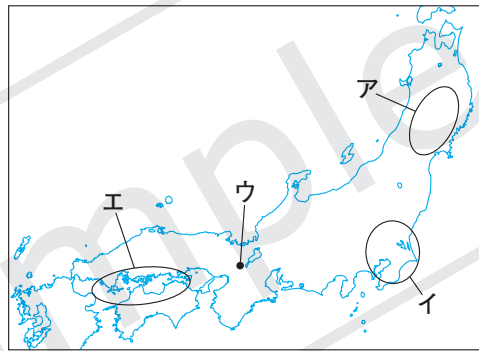
(1) 下線部について、次の問いに答えなさい。

- ① 武士は地方で、右の図のようなまとまりをつくっていた。図の( )にあてはまる、このようなまとまりを何というか。
- ② 天皇や貴族の子孫で右の図の集団のかしらを何とよぶか。
- ③ 右の図の集団の中で、天皇の子孫といわれるのは源氏と何氏か。



(2) 次のア～ウから平安時代末の武士について述べた文としてあてはまるものを選びなさい。

- ア 都の貴族に仕えて、護衛にあたった。
- イ 国司に任命されて地方を治めた。
- ウ 租・調・庸がかけられた。



(3) 次のA、Bの乱が発生した地域を、右の地図中のア～エから選びなさい。

- A 平将門の乱
- B 藤原純友の乱

1

(1)	①	
	②	
	③	
(2)		
(3)	A	
	B	

2 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

11世紀半ば、藤原氏と血縁関係がうすい後三条天皇が即位すると、天皇に政治の実権を取りもどそうとした。そして、次の白河天皇は、位を皇子にゆずって、( ① )となつたのちも政治を行った。12世紀半ばになると、天皇家や藤原氏の争いなどが起こった。保元の乱では( ② )や( ③ )を味方につけた後白河上皇が勝利した。こうしたことから武士は武力で争いを解決し、地位を高めていった。

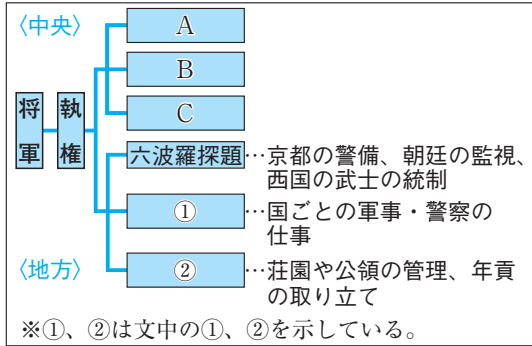
- (1) 文中の①にあてはまる語句は何か。
- (2) 文中の②・③にあてはまる人物を次のア～エから選びなさい。  
ア 平清盛    イ 源義朝    ウ 後三条天皇    エ 持統天皇
- (3) 下線部①の政治を何というか。
- (4) 下線部②の3年後、後白河上皇の政権内で起こった対立を何というか。
- (5) (4)の戦いに勝ち、太政大臣となった人物について、次の問いに答えなさい。
  - X この人物が大輪田泊を整備して行った貿易を何というか。
  - Y **表現力** この人物は、どのような方法で政治の実権を握るようになったか。「娘」と「天皇」という語句を使って説明しなさい。

2

(1)		
(2)	②	
	③	
(3)		
(4)		の乱
(5)	X	貿易
	Y	

③ 次の文を読み、右の図を見て、あとの問いに答えなさい。

源平の内乱の間、鎌倉で指揮をとっていた源頼朝は、武家政治のための実際的で簡素なしくみを整えて、朝廷にせまり( ① )・( ② )を置くことを認めさせた。その後、頼朝は、征夷大将軍に任じられ、鎌倉に初の武家政権を成立させた。頼朝は、御家人に 新しい領地を 与え、そのかわりに 将軍のために働くことを誓わせた。



- (1) 文中と図中の①・②にあてはまる語句は何か。
- (2) 図中のA～Cにあてはまる語句を、次の文をふまえて答えなさい。
  - A 御家人の統率、軍事と警察の仕事をした。
  - B 一般の政務や財政の仕事をした。
  - C 訴訟や裁判の仕事をした。

- (3) **表現力** 下線部①はどのような人々か。簡潔に説明しなさい。
- (4) 下線部②について、奉公に対して、将軍が御家人の先祖伝来の領地の支配を認め、新しい領地を与えることを何というか。

(1)	①	
	②	
(2)	A	
	B	
	C	
(3)		
(4)		

④ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

頼朝の死後、幕府の実権は( ① )という地位についた北条氏の手に移った。この後、3代将軍が暗殺され、これを政権奪回の好機とみた<sup>a</sup>( ② )上皇は、1221年、北条氏を討つ命令を全国に下したが、幕府の大軍の前に敗れた。また、1232年、北条泰時が、武士の社会の慣習に基づいて、御家人に対して作った裁判の基準を示すための法律は、その後、長く武士の政治のよりどころとなった。

- (1) 文中の①にあてはまる語句は何か。
- (2) 文中の②にあてはまる語句は何か。
- (3) 下線部①を何というか。
- (4) 下線部①のあと、朝廷の監視のために、京都に置かれた役所を、次のア～エから選びなさい。  
ア 問注所      イ 六波羅探題      ウ 守護      エ 大宰府

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

⑤ 鎌倉時代の文化や宗教、生活について、次の問いに答えなさい。

- (1) 右の資料は、鎌倉時代に人々に親しまれた作品の冒頭である。この作品名を答えなさい。
- (2) 各地をまわって、右の資料の作品を武士や民衆に語り伝えた人のことを何というか書きなさい。
- (3) 戦乱や天災、貴族の没落などから世のはかなさを書いた随筆『方丈記』の作者はだれか書きなさい。
- (4) 藤原定家らが編集した和歌集を何というか書きなさい。

祇園精舎の鐘の聲、  
諸行無常の響あり。  
沙羅双樹の花の色、  
盛者必衰のこころをあらわす。  
おごれる人も久しからず、  
ただ春の夜の夢のごとし。  
たけき者もついに滅びぬ、  
ひとえに風の前の塵に同じ。

(1)	
(2)	法師
(3)	
(4)	